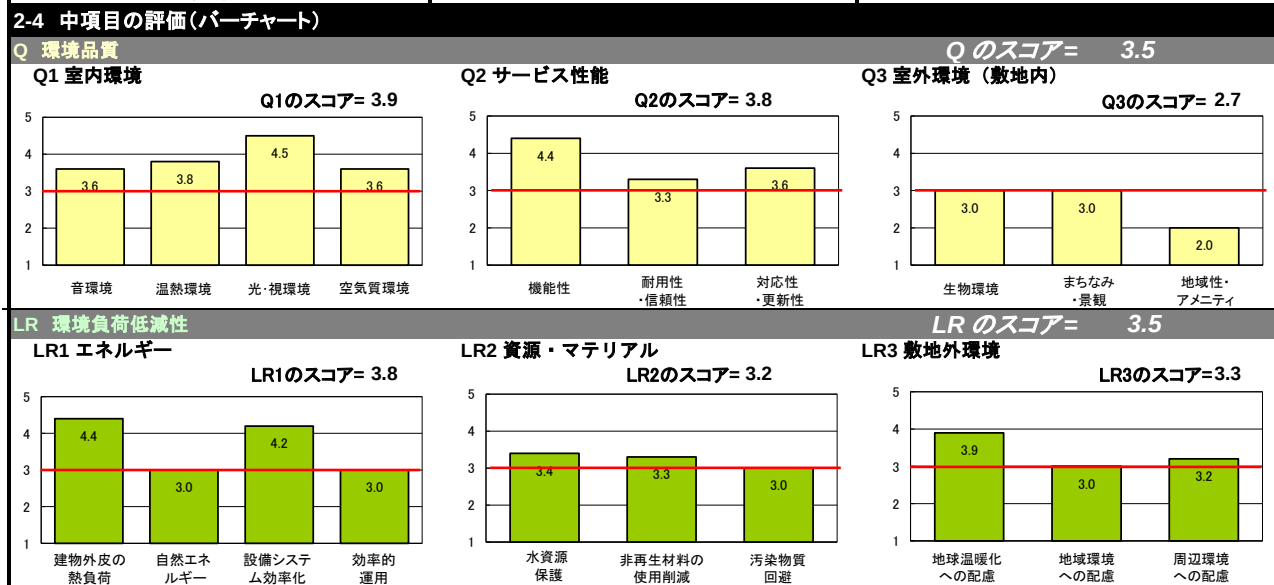
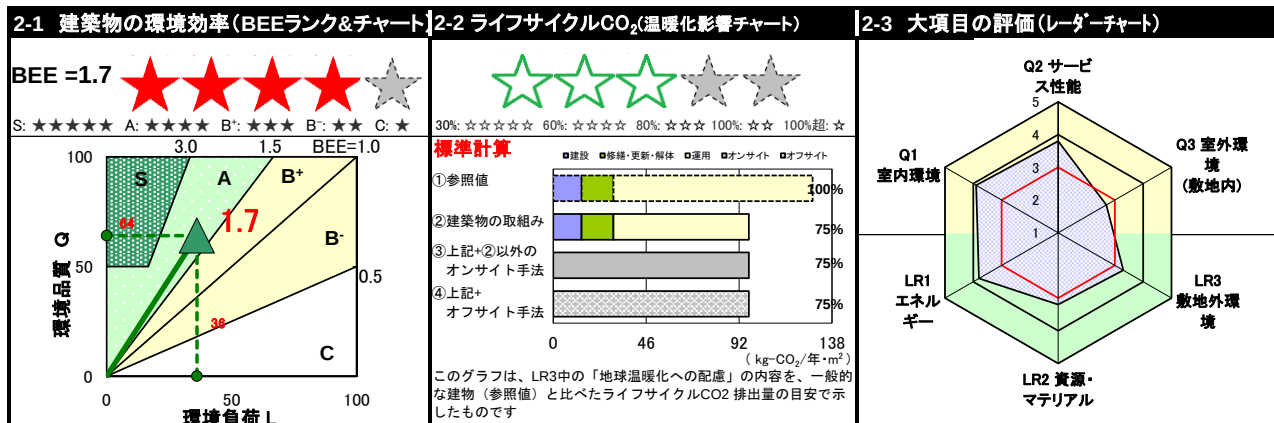


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 ■使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ADC BLD. MARUNOUCHI新築工事	階数	地上14F
建設地	名古屋市中区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年4月4日
敷地面積	1,037 m ²	作成者	
建築面積	845 m ²	確認日	2025年4月18日
延床面積	10,668 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 地下鉄桜通線・鶴舞線丸の内駅から徒歩1分の商業地域に位置するオフィスビルであり周辺にもオフィスビルが立ち並び、大通りの面したバルコニーを利用した屋上庭園に緑地を多く設置することにより一目置かれる建物となっている。		その他 なし
Q1 室内環境 カーテンウォールを採用し昼光率を高くすることで十分な採光を確保。 照明・換気・空調を管理することにより快適に過ごせるよう工夫している。	Q2 サービス性能 天井高や階高は高く、充分な広さの執務スペースを設けることで使用する方が圧迫感を感じないようなゆとりのある設計となっている。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上バルコニーに緑地を設けることで良好な景観を保っている。
LR1 エネルギー BP10.80以下	LR2 資源・マテリアル 部材を再利用できるようにOAフロア・グリッド天井やPB+LGSを採用している。	LR3 敷地外環境 広告物照明を使用せず、より良い敷地内環境になるよう工夫している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ADC BLD. MARUNOUCHI新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.090370055	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009037005	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045185027	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.7
	
2. 自然共生	評価点 = 2.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.3
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。